

グルジア政治・経済 主な出来事

【2015年2月2日～2015年2月8日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成27年2月10日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼EU事務所の開設をめぐる報道(3日)

・アブハジアのメディアは、EUがソフミでの事務所の開設を計画しており、ザルバーEU南コーカサス担当特別代表とハジンバ「アブハジア共和国大統領」がこの件について協議したと報道。

・グルジア外務省は、グルジア側の同意なく事務所がアブハジアに開設されることはないとして、「アブハジアのメディアによって広められた情報は誤りである」とコメント。

▼プーチン露大統領がアブハジアとの「条約」の批准に署名(4日)

・「プ」露大統領はアブハジアとの「同盟と戦略的パートナーシップに関する条約」の批准に署名。1月23日に露国家院が、1月28日に連邦院が批准を承認していた。

2. 外 政

▼アパトゥラインNATO南コーカサス・中央アジア担当事務局長特別代表の発言(3日)

・公共放送局のインタビューに対し、「ア」特別代表は、「グルジアは、NATOがいかなる他国にも行ったことのない支援を受けている」として、条件を満たす国に対してNATOの門戸は開いており、第三国には決して干渉させないと発言。また、NATOはロシアと南オセチアが「条約」を結ぶのを防ぐことはできないが、ロシアとアブハジアの「条約」と同様に決して認められることはないと述べた。アフガニスタンでのNATOのミッションへのグルジアの貢献に感謝。

▼バクラゼ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣がウクライナを訪問(4日)

・ウクライナのクリムキン外務大臣と会談。両国のEU加盟、連合協定の実施状況、地域情勢などについて議論。

▼NATOグルジア委員会(5日)

・5日、NATO本部で行なわれたNATO国防相会合で、NATOグルジア委員会会合が開かれ、ジャンネリゼ国防相が出席。ストルテンベルグNATO事務局長は、「NATOとグルジアは強くかつ非常に活発なパートナー関係にあり、NATOはこのパートナー関係を更に深めようとしている」「ウェールズで行なわれた首脳会議で、我々はグルジアの国防能力およびNATO軍と共同で活動する能力を高める実質的なパッケージを承認した。我々は、グルジアが自らの安全保障を強化し、NATO加盟により近づくの

を助けるべく、この重要な取り組みを更に前進させる」と挨拶。

・NATOグルジア委員会会合の後に発表された共同声明は、実質的なパッケージの実施における明確な進展に言及しつつ、ブカレストでの首脳会議以降、グルジアが著しい前進を遂げ、NATOにより近づいたと述べている。更に、NATO諸国の国防相は、NATOのミッションへのグルジアの重要な貢献を高く評価し、また、ロシアの国際的な義務・約束および国際法の原則に反してロシアがとった措置を非難している。

・「ジャ」国防相はヘーゲル米国防長官およびリトアニア、英国、ルーマニア、ポーランドの国防相と会談。

▼ロシアNATO常任代表の発言(6日)

・グルシコ露NATO常任代表は、「NATOの訓練センターのグルジアへの設置は挑発としかとらえられない。NATOにはそのようなセンターは必要ない」「グルジアでのNATOの軍事施設の設置は地域の緊張を招く」と発言。

▼ポーランドがEU・グルジアの連合協定を批准(6日)

▼ガリバシヴィリ首相がミュンヘン安全保障会議に参加(6日)

・ガリバシヴィリ首相は第51回ミュンヘン安全保障会議に参加。アリエフ・アゼルバイジャン大統領らとともに「ウクライナを越えた欧州の未解決の紛争」のセッションに参加し、「ウクライナの前はグルジアであった。その時に国際社会がより注意を向けていたならば、ウクライナの危機は起こらなかつただろう」と述べた。また、グルジアの被占領地域の状況について懸念を表明し、ロシアとアブハジアおよび南オセチアとの「条約」を非難。

・「ガ」首相はバイデン米副大統領と二国間協力、安全保障、グルジアのEU・NATO加盟の見通し、地域情勢などについて会談。ガーニ・アフガニスタン大統領、楊潔チ中国国務委員とも会談。

・「ガ」首相とともに会議に参加した「ベ」外相は、ノルウェー、クウェート、スウェーデンの外相およびエリアソン国連事務次長と会談。

3. 内 政

▼内務省関係者11名の逮捕(2日)

・2006年5月に青年2名がトビリシ市内で警官に射殺された事件について、元警官5名と内務省特務隊員6名が逮捕された。当時、政府は強盗を働こうとしていた青年らが運転していた車内からの銃撃に警官が対応したと発表した。2012年秋の政権交代以降、調査が再開されたが、射殺された青年の父親ヴァザガシヴィリ氏は捜査の遅れ

を批判し、事件に関与した職員を「かばっている」としてチカイゼ内相を非難していた。1月20日に「ヴァ」氏が墓地での爆発に巻き込まれて死亡した後、23日にチカイゼ内相が辞任した。

・検察は、2日に逮捕されたピルツハラヴァ元刑事警察次長が、青年に対する個人的な恨みを動機として作戦を立案・決行したと主張。検察は「ヴァ」氏の死亡事件についても計画殺人の疑いが強いとして捜査を進めている。

・7日、1月20日に「ヴァ」氏を手榴弾で殺害した容疑で警官が逮捕された。

▼人権保護官が通信記録に対する治安機関のアクセスを認める法律を憲法裁判所に提訴(2日)

・通信会社の電子通信記録に対する内務省の直接のアクセスを認める法律について、人権保護官事務所は、憲法の保障するプライバシーの権利を侵害するとして憲法裁判所に提訴したと発表。

・同法はマルグヴェラシヴィリ大統領が拒否権を發動したが、2014年11月30日に国会が再可決した。

▼中央選挙委員3名の選出(4日)

・国会は大統領が指名したジャヴァヒシヴィリ財務次官ら3名の中央選挙委員候補者を承認。

▼農業開発戦略(6日)

・ダネリア農業相が農業部門の競争力を向上させる環境づくりを目的とした農業開発戦略を発表。農業に携わる人々の競争力の向上、組織開発、土地改良、食の安全保障、環境・生物学的多様性の維持などを重点項目に挙げている。

4. 経 済

▼2015年1月のインフレ率(3日)

・国家統計局が速報値を発表。月間インフレ率は0.2%。食料品・非アルコール飲料の価格が1.2%上昇(野菜7.5%、果物4.2%、牛乳・チーズ・卵1.3%)。アルコール飲料・タバコの価格が4.5%上昇。輸送費が3.7%低下。

・年間インフレ率は1.4%。食料品・非アルコール飲料の価格が1.7%上昇(果物20.9%、肉類3.6%、魚3.1%、野菜4.6%)。アルコール飲料・タバコの価格が6.6%上昇。輸送費が5.9%低下。

▼ガスの値上げ(3日)

・国内でガスを供給するKazTransGazとSOCAR Georgia Gasは、ラリの為替レートの変動を主な理由として、3月より法人に対するガスの価格を現在の1m³当たり0.75ラリから0.9ラリに値上げすると発表。

・経済・持続的発展省は、ガス供給会社との協議の結果、市民生活への影響の大きいパン工場は値上げから除外されると発表。

▼ダネリア農業相がベラルーシを訪問(3日)

・ミンスクにてグルジア・ベラルーシ経済協力政府間委員会の会合が行なわれた。両国間の物流量の増大が評価され、漁業、畜産などの分野での協力の強化に関し合意。グルジアにベラルーシの通商代表部が開設されることが決定された。

▼2015年1月の入国者数(3日)

・内務省によれば、2015年1月の入国者数は309,467人。前年同期比3%減。うち旅行者は111,622人(前年同期比9%減)。入国元別ではトルコ(同12%減)、アゼルバイジャン(同12%増)、アルメニア(同2%減)、ロシア(同6%減)、ウクライナ(同10%減)。リトアニア(同164%増)、トルクメニスタン(同132%増)、ベラルーシ(同53%増)、モルドバ(同43%増)などからの増加が著しい。

▼EFTAとの自由貿易協定に向けた協議(4日)

・経済・持続的発展省は、アイスランド、ノルウェー、スイス、リヒテンシュタインから構成される欧州自由貿易連合(EFTA)との自由貿易協定への署名に向けた協議を2015年9月に開始することについて合意したと発表。

▼2014年中の道路建設・修復(7日)

・地方発展・インフラ省道路局が2014年中の成果を総括。東西ハイウェイの131kmの区間で建設が行なわれ、クタイシ・バイパスを含む約40kmが開通。265kmの道路の修復が行なわれた。11の橋が建設され、42の橋が修復された。道路関係の歳出の総額は526.4百万ラリ。

5. その他

▼大統領に男児が誕生(2日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領とチチュア夫人との間に男児が誕生し、ティムラズと名付けられた。「マ」大統領と「チ」夫人にはそれぞれ娘が1人いるが、2人の子供ははじめて。